

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 高等学校国語科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 平川 真由美

研究協力員 県立菊池高等学校 教諭 渡邊 伸一

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

高等学校における国語学習の習熟度が高い生徒は、基礎を徹底して身に付けていることに加えて、教科書の文章の中から教材の本質をつかみ、汎用的に用いることができる。この「本質をつかみ、用いる」という学習の流れを授業の中で体験することで、国語の楽しさの体験や深い学びへと導くことができるのではないかと考える。また、教材の内容・学ぶ方法を通して、作中人物の人生観を自分の人生に引き寄せて考えることにより、言葉に着目し、人生における答えのない問いに対しても言葉による見方・考え方を働かせて自分なりの解答を導き出したり、学んだことを生かして粘り強く取り組んだりする力を育てることを想定している。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

高等学校では学習内容が難しくなることにより、概して学びの実感が得にくい。具体的にどのように勉強すればよいのかが分からないということも多い。生徒が学びを実感し、学習意欲を持続できるよう、ルーブリック的評価やワークシート等を活用する。評価や学習の過程を可視化する工夫により、自己肯定感や主体性等、非認知能力の向上を目指している。

2 研究の実際

検証 高等学校第1学年

教材名 寓話「淮南子 塞翁馬」

(1) 本教材の授業設計

① 生徒の実態から

対象は普通科普通クラスであり、進路希望は大学進学から就職まで幅広い。全体的に落ち着いた授業態度のクラスである。授業において発問や課題には真摯に向き合い、クラス全体に向けての積極的な発言も出る。ペアやグループでの話し合いでも様々な発言が出る。国語総合の学習に対しても意欲が高い。

学校生活や学習を通して、「分かるようになった」と実感している生徒も多いが、自分や他人の成長を認めることや、成長を周囲から認められているという項目ではまだ評価が低い傾向にある。

また、古典教材の学習を通して、古典の登場人物も我々と同じ思いを持つということを考えたり、古典を読もう、参考にしようと思うようになったりする生徒は少ない。

② 教材観

今回取り上げる『淮南子』は、道家的な寓話を多く収めており、易経の影響も受けている。中でも「塞翁馬」における「禍福」の思想は、偶然と見える現象も実はすべて人間が自ら招くところのものだという『淮南子』人間訓（じんかんくん）の説であり、現代社会と重ねて読み取るにふさわしい教訓である。学習指導要領国語総合「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)、アの(ア)「伝統的な言語文化への興味・関心を広げること」にもつながる。

本教材において学習を行うことは、古典が実人生への示唆を与えてくれるものであるという認識を育て、学校教育方針である「道徳性の陶冶、真理の探求、心身の錬磨」及び育てたい生徒像「①豊かな人間性と品格を備えた生徒②確かな学力を身につけた生徒③進路の自己実現を目指す生徒」の実現や未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

- ペアワークでは、ルーブリック的評価を用いて細かなステップで評価することにより、漢文訓読の上達を実感させる。
- 正しい訓読を理解した上で役割読みをすることで漢文独特の言い回しや基礎を理解し、登場人物の心情について深く考察する契機とする。
- 寓話の持つ鋭い人間観や社会に対する洞察力を味わわせるとともに、登場人物の行動や心情を生徒自身に引き寄せて、段階的に読みを深めることで、実人生において起こる諸事に対して生きて働く学びとする。
- 3～4名の班で協議することで他者の視点を取入れ、「自分の考えが変わった」「より良いものになった」という実感を持たせる。

イ 研究の視点

(ア) 研究の視点1

- ① 役割別音読を繰り返して練習することで、基礎の定着を図る。
- ② 自分の人生の中でうまくいかなかったことや困難を感じていることを書いた後、翁の言葉を付け足すことで、古典が自分の人生に生かせることを学ぶ。
- ③ 翁が一貫して同じような態度を取り続け、喜びすぎたり悲しみすぎたりしなかったのはなぜか考えることで、言葉による見方・考え方を働かせる。

(イ) 研究の視点2

- ④ 動画やループリッックの評価を使って自己評価・相互評価することで、学びを実感させる。
- ⑤ ワークシートを使った振り返りを取り入れることで、学習過程を可視化する。

④ 教材の目標及び評価規準

教材の目標	自分の人生に引き寄せて翁の言葉を考えることで翁の考え方についての理解を深め、古典が人生の参考になるものであることを感じる。
国語への関心・意欲・態度	①本文の内容理解、音読、相互評価や協議に積極的に参加している。
読む能力	①登場人物の心情について自分の考えをまとめ、協議の場で発表できる。 ②協議をすることで、自分以外の考え方に触れ、内容の理解を深めることができる。
書く能力	①登場人物の心情について、ポイントを押さえてまとめることができる。 ②登場人物の心情について、自分に引き寄せて考えることで、内容の理解を深めることができる。
言語についての知識・理解・技能	①語句の意味、重要句法を正確に理解した上で、書き下し文に直したり口語訳したりできる。

⑤ 教材指導計画

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 本文を音読する。 (1) 訓読の決まりを復習する。 (2) 漢文らしい口調で音読する。 (3) 状況がよく分かるよう、抑揚をつけて音読する。	【関心・意欲・態度】：観察 【知識・理解】：ループリッック的評価 【研究の視点1】 ①役割別音読を繰り返し練習する。 【研究の視点2】 ④動画やループリッック的评价を使って自己評価・相互評価する。
二	2	2 本文の内容を理解する。 (1) 重要語句・句法に留意しながら書き下し文に直したり、口語訳したりする。	【関心・意欲・態度】①：ノート 【知識・理解】①：ノート
三	2	3 主人公の視点について協議し、内容の理解を深める。 (1) ペアで役割読みをする。 (2) 読みの熟達度を相互評価する。 (3) 本文に類した体験談を書き、互いにコメントを書く。 (4) 班を作り、主人公の視点の根拠についてそれぞれ考えた後、協議する。 (5) 各班で発表をし、互いに発表を聞く。 (6) 本文に即した体験談を書き、互いにコメントを書く。(2回目) (7) 学習内容を振り返る。翁の考え方や「塞翁馬」を通して学んだこと・考えたことを記入する。	【研究の視点1】 ①役割別音読を繰り返し練習する。 【研究の視点2】 ④動画やループリッック的评价を使って自己評価・相互評価する。 【関心・意欲・態度】①：ワークシート・観察 【書く・読む能力】①②：ワークシート・観察 【研究の視点1】 ②自分の人生の中でうまくいかなかったことや困難を感じていることを書いた後、翁の言葉を付け足す。 ③翁が一貫して同じような態度を取り続け、喜びすぎたり悲しみすぎたりしなかったのはなぜか考える。 【話す・聞く能力】①②：ワークシート・観察 【研究の視点2】 ⑤ワークシートを使って振り返りをする。

(2) 指導の実際(4/5時間)

本時の目標
自分の人生に引き付けて翁の言葉を考えることで翁の考え方についての理解を深め、古典が人生の参考になるものであることを感じる。

過程	学習活動及び指導上の留意点
導入	1 本時の学習目標・流れを確認する。 学習目標 翁の考え方についての理解を深める。 ○翁の言動や考え方について協議することを伝える。 ○班を作る。 2 ペアで役割別音読をする。 ○机間指導し、役割別音読がスムーズにできているか観察する。 【研究の視点2】 音読を動画やループリッック的评价を使って自己評価・相互評価する。 ○指名して範読させる。
展開	3 登場人物の視点について、自分に引き寄せて考える。 (1) 自分の不安や悩みが好転した・するだろう経験を書く。 (2) 互いの体験談にコメントを書く。 ○机間指導し、体験が書けていない場合はキーワードを示すなどのアドバイスをする。 教材を貫く問い：翁が一貫して同じような態度を取り続け、喜びすぎたり、悲しみすぎたりしなかったのはなぜか。 4 [教材を貫く問い]について話し合う。 (1) 自分なりの考えを持つ。 (2) 互いの考えを交流する。 【言語活動】(設定の意図) 自分と他者の考えを比較・検討させることで、翁の考え方についての理解を深める。 【研究の視点①】 自分の人生の中でうまくいかなかったことや困難を感じていることを書いた後、翁の言葉を付け足す。 【研究の視点1】 翁が一貫して同じような態度を取り続け、喜びすぎたり、悲しみすぎたりしなかったのはなぜか考える。 評価：話す・聞く能力(ワークシート・観察) B基準 自分の考えを提示し他の生徒の考えを聞き、翁の考え方についての理解を深めている。 A基準 B基準に加え、的確な言葉を複数出すことができている。 5 学習したことをまとめる。 (1) [教材を貫く問い]に対する分かったこと気付いたことを班の中でまとめていく。
整理	6 学習したことを振り返る。 ○振り返りの視点を示し、次時への意欲を高める。

漢文音読ループリッック的评价シート

	A	B	C
1 大きな声で読める	A	B	C
2 はっきり・明瞭に読める	A	B	C
3 すらすら読める	A	B	C
4 漢文らしい口調で読める	A	B	C
5 状況が伝わるように読める	A	B	C

(3) 指導上の配慮

- ① 漢文音読ルーブリック的評価シートは簡潔にして、教師・生徒ともに毎時間実施して負担がないようにした。
- ② 個人の体験を記入する作業があるので、悩み等については書ける範囲でよいと指示する。また、コメントする際に誠実なコメントができるようワークシートに応援のイラストをつけ、前向きなコメントを記入するよう促した。

(4) 検証結果と考察

図1は、アンケート結果をグラフにしたものである。全体的に検証前よりも検証後に円が大きくなっていることから、今回の授業の工夫が一定の成果を

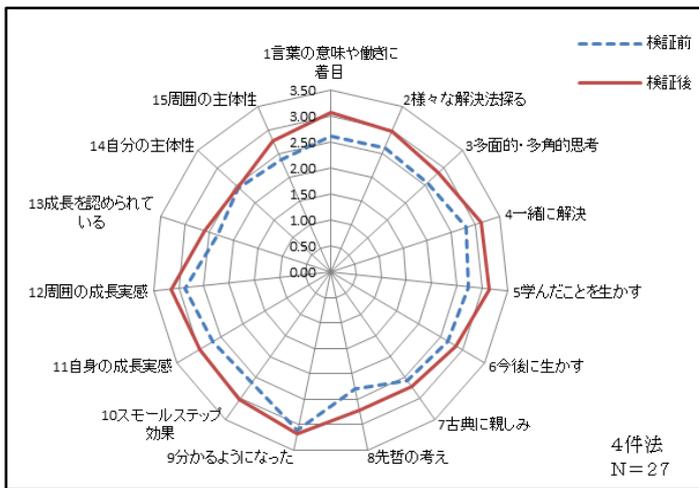


図1 アンケート全項目グラフ

① 「豊かな学び」について

表1は学習活動における豊かな学び「見方・考え方」「言葉に着目」「伝統文化」「成長の実感」について見取る質問紙調査の結果である。

表1 「豊かな学び」に関する変容 (n=27) 4件法
有意確率**<0.01 *<0.05

項目番号	質問	検証前	検証後	有意確率
1	国語総合の学習のとき、言葉の意味や働きなどにこだわりながら、問題を解決しようとしている。	2.63	3.07	0.001 **
2	国語総合の学習のとき、様々な解決方法を試しながら、問題を解決しようとしている。	2.63	2.96	0.006 **
3	国語総合の学習により、言葉の意味を考え、内容について他の見方はないかと考えるようになった。	2.57	2.85	0.022 *
4	国語総合の学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	2.80	3.11	0.011 *
5	これまでに学んだことを生かして国語総合の学習に取り組んでいる。	2.73	3.15	0.006 **
6	国語総合の学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かせるのではないかと考えるようになった。	2.67	2.85	0.500

7	国語総合を学習したことにより、古典に親しみを感じるようになった。	2.57	2.70	0.332
8	国語総合を学習したことにより、古典の人物も我々と同じ思いを持つことがわかり、これからも古典を読もう、参考にしようと思うようになった。	2.30	2.70	0.003 **
9	国語総合の授業のとき、「分かるようになった」「できるようになった」と感じる。	3.10	3.19	0.287
10	国語総合で音読をして、細かなステップで評価をしたことで、変化を実感した。	2.63	3.04	0.001 **

表2 [教材を貫く問い]に対する生徒の解答例
話し合い前

感情をあまり表に出さないから。
喜びすぎたり、悲しみすぎたりすると、喜びや悲しみが薄れてしまおうと思ったから。
現実を受け入れられなかったから。

話し合い後

幸せや不幸のどちらかだけがずっと続くわけではないと知っていたから。
生きていく中で人間には幸福が訪れることもあれば、わざわざ降りかかることもあると知っていたから、あまり感情を表に出さずに同じような態度を取り続けたのだと思う。
翁は、不幸の後には福があると分かっていた、次に起こることも分かっていたから喜びすぎず、悲しみすぎず、一貫して同じような態度を取り続けた。

ア 研究の視点1について

表1から有意に向上が見られたものについて分析していく。自らの体験を「翁」の視点からとらえ、班で話し合うことにより、表2の解答例にみられるように考えが深まり、項目2「様々な解決方法」項目5「学んだことを生かす」など、当初より意図していた効果が見られた。なお、ワークシートには、まとめきれてはいないものの、「翁の人生経験から分かっていた」「先人の知恵から考えた」などの言葉も見られた。

予想を超える結果であったのは、項目1「言葉の意味や働きに着目」と項目8「古典を読もう」の項目であった。生徒達が「善術」の部分に気付かないことも想定し、易经や陰陽思想についてはまとめて指摘するという計画を立てていたが、班活動の中で言葉に着目し、ストーリーを追いつながりながら問題を解決する過程で、ほとんどの班で「善術」の部分について議論されていた。そのような読みの深まりにより、「古典の人物も我々と同じ思いを持つこと」を実感でき、人生の「参考にしよう」と古典を汎用的なものとしてとらえられるようになったと考えられる。これは古典嫌が増える漢文学習の初期としては、大きな効果である。

イ 研究の視点2について

表1から有意に向上が見られたのは、項目10「細かなステップで変化を実感」である。これは音読評価シートの効果が大きいと考えられる。結果として全員が読めるようになり、生徒へのインタビューにおいてもルーブリック的評価は好評であった。自らの日々の努力プロセスを冷静かつ客観的に把握する力を身に付ける1つの方法としてルーブリック的評

価は有効であると考える。

教師が細やかに評価基準を設定しておき、生徒の成長に応じてタイムリーに認めることで、生徒の内なる基準が育つ。他人と比べるのではなく、自分の成長に主眼を置く姿勢を育むことで、最終的には、自己肯定感や自己有用感を持ち、主体的に自分で目標に向かっていける態度を育成することが重要である。

なお、今回はルーブリック的評価を自己評価と相互評価で利用したが、相互評価では相手に気を遣い、最初から高い評価になっていた。今回の結果を見ると、自己評価だけで充分だと考えられる。

ワークシートについても、生徒の思考に沿って自分の人生に引き寄せる問いから[教材を貫く問い]まで、段階的なワークシートを作成したことで、学びの効果を感じられた。表2の通り、口語訳を終えた最初の段階で[教材を貫く問い]の解答を書かせると、ほとんどの生徒が何も記述できていなかったり、間違った記述をしたりしている。自分の体験を記述した後で、翁の考え方について話し合いをする中で、間違いが訂正され、班ごとの解答が形成された。

表3の自由記述による最終的な振り返りでは、それぞれがこの教材で学んだこと・考えたことや自分の考えが表れている。

表3 自由記述振り返り例

野球にもピンチはチャンスという言葉があるので、いいことがあると思いつつ最後まで頑張ろうと思います。
自分の意見と相手の意見を比べたりできるのでとても楽しかった。悪いことばかりではないということも学んだ。これから前を見ていけると思った。
占いで未来を見るのは悪いことではないと思うけど、個人的には未来は知らないほうが今の人生を楽しめると思った。

教材を自分の人生に引き寄せて解釈し、「頑張ろう」や「楽しかった」と考えることは人生を前向きに生きることや、国語への興味・関心につながる。また、「個人的には未来は知らない方が」の記述には批判的思考力の萌芽が見て取れる。このような考え方は大切に育てる必要がある。

② 「未来の創り手」について

表4は、「未来の創り手」について見取る質問紙調査の結果である。「未来の創り手」の質問項目は自分で自分の成長を感じ、主体的に人生に向き合う姿勢を問うものとなっている。

表4 「未来の創り手」に関する変容 (n=27) 4件法 有意確率**<0.01 *<0.05

項目番号	質問	検証前	検証後	有意確率
11	自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が成長したと思う。	2.70	2.93	0.081
12	自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が成長している(わかる・できるようになっている)と思う。	2.87	3.15	0.011*
13	自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から、成長を認められていると思う。	2.33	2.59	0.042*

14	自分は、学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	2.43	2.44	0.250
15	自分は、周りの人が、学校生活や学習を通して学んだことをもとに、主体的になったと思う。	2.37	2.78	0.003**

表4の結果から、「未来の創り手」に関しても、集団としての変容がうかがえる。多くの項目で有意な向上が見られており、特に項目15「周りの人が主体的に」で顕著な結果が出ている。この結果を見ると、班活動の中で友人の意見を称賛する気持ちや、自分の意見を表現することができたという思いが起点となり、項目12「周囲が成長」項目13「周りの人に認められる」に波及していると考えられる。項目11「自分が成長した」項目14「自分が主体的になった」ことを実感するのは最終段階であると考えられるので、今後も問いや振り返りの工夫、ルーブリック的評価や班活動を適宜取り入れていくことで、「自分が成長」したと考える意識にも効果が及ぶと考えられる。

3 研究のまとめ

今回、高等学校国語科では、研究の視点によって「豊かな学び」「未来の創り手」の育成につながったかを検証した。

(1) 成果

これまで述べてきた表1・表4の変容から、研究の視点による取組により、「豊かな学び」「未来の創り手」の育成へつながったと考える。視点1の段階的な学びの方法や問いの工夫により見方・考え方が働き、視点2のルーブリック的評価やワークシートによる評価基準の内在化により学びの実感が得られることが見て取れる。学習内容の定着や国語の学習意欲向上にもつながったようである。

(2) 課題

班活動での話し合いにおいて、十分に班員の意見を生かさない班もあった。また、[教材を貫く問い]や自由記述の振り返りにおいても、その内容において個人差が見られた。班活動はこれまでほとんど体験していなかったため、今後実施する際には、教師の助言、班構成の工夫や模範的な話し合いの方法を示す等の対策が考えられる。個々に力を還元していけるように、全員の意見を上手に生かし、さらに学びが深まる協議を目指し、支援継続していく必要がある。

《引用・参考文献》

- ・高等学校学習指導要領解説国語編（平成22年12月17日更新）
- ・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）
- ・奈須正裕(2017)『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社
- ・アンジェラ・ダックワース(2016)『GRIT やり抜く力』ダイヤモンド社
- ・ポール・タフ(2017)『私たちは子どもに何ができるのか』英治出版